

先日は、父母の会に参加できず残念に思っています。いただいた宿題に目を通しながら、何度目かになる『鏡の法則』を読みながら、これまでの何度かには至らなかった今回気付いたことと、思いを感想として書かせていただきます。

子どもの良いところを見つけるのは、わりと思いつきやすいのですが、自分の良いところとなると、なかなか思いつきません。

親として、「こうしてあげたい」という思いが子どもに働いてしまうのでしょうか。でも、「こうしてあげたい」は、実は親の身勝手なのですよ。子どもは望んでいない事の方が多い気がします。

私は、宿題を見た瞬間「ペアレント・トレーニングだ！」と思いました。コーチングですから、当然と言えば当然なのですが。

褒める・認める・受け止める（受け入れる）は大切だと思います。褒め方・認め方・受け止め方（受け入れ方）が難しいのだと思います。親だからこそ、子どもへの無償の愛情（思い）が湧き出てきてしまいます。この思いは、時として親から子どもへの圧力を思わせるような感情に見えてしまうことがあります。決して、親は意図的にしているのではないのですが（と自分では思いたいのですが）。親が感情的になればなるほど、子どもは威圧感しか感じなくなってしまいます。こうなると、いくら親が冷静さを取り戻して再度伝えようとしても、子どもにできてしまった『親からもたらされた子どもが思っている溝』は、親が埋めることはできません。溝を埋められるとしたら、子どもが自分で親の本当の思いに気付き、できてしまった溝を埋めるという『修正』をしていくことではないかと思います。

そのためには、このときの親の思いだけに子どもが気付けばいいのかという、そう思うのは親だけかもしれません。

『親はいつだって〇〇と言うんだ』と子どもが思っていたとしたら、親は『いつだって、子どものことを思うから〇〇と言って教えているんだ』と言いたいと思います（私だけかもしれませんが）。

でも、この親の考えも間違いなのですよ。なぜなら・・・、『親はいつだって、子どものことを思うから〇〇と言って教えているんだ』だからです。主語を入れると、やっぱり親の強引さが明らかなのですよね。

子どもが聴き入れてくれそうな言い方にするとしたら、『子どもがやるのを見ていると、親は心配だから言いたくなってしまう』となるのでしょうか。

親は、親の思いを子どもにどう知らせていくかを考えることが大切であり、子どもを導くために、子どもが色々な形で表している姿（サイン）に気付けるような冷静沈着さが必要なんだな・・・と を育てながら感じて

います。

《ここまで打ってから、中断していました・・・。》

に限らず、にも、『この子の母親に生りたての時』は、生まれた頃の我が子を見ながら、『～だね』と我が子の姿から気持ちを察して、親の喜びとして自分から『目をかけ』『声をかけ』『思いをかけ』をしていたなと気付かされ、初心に戻ることを、我が子達は、いつのときも家庭から一步出た見知らぬ社会での心細さ・戸惑いを表現する言葉も学んでいない時から、一生懸命発信していたんだと、今更ながら気づき、親としての未熟さに情けなく思っています。

反省しきりの中では、私自身、すごく感情的になっていたのも、更に今現実として発信しているの心の叫びを危うく見落とすところでした。

になり、欠席日数50日目を目前にしてやっとです。この間も、色々と試行錯誤しながら私自身は苦しみ、葛藤を超えて、思いを爆発もさせ、両親にこの歳で反抗し、自己嫌悪に陥り、安定剤・睡眠導入剤という薬と上手く付き合う方法も身につけ、やっとです。

『私って、いつものつぶやきを聴いてたじゃないか。助言してたじゃないか。なんで、もっと底の底まで探らなかったんだ。今振り返ったら、なんてことない、元をたどればが言うに言えなかった言葉が浮かんできたじゃないか！』

本当に情けないです。に申し訳ないです。にも。

我が子達、親が未熟なのに『スゴイなあ』『よく今まで耐えていたな』『解決してきたな』と思いつくことだらけ。私は、自分の職種にも甘え過ぎ、目先のことすら見えていなかったんだ・・・、他者にはエライこと言いながら・・・。

《この直後から、色々な人に支え導かれていただけたことが次々と思い起こされました。支え導かれていたのに、心の底ではどこかで自分の意志を頑なに崩そうとせずにいた自分の愚かさを思い起こしました。頑固に突っぱねる自分に対して、心底心配をして見守ってくれていた人達の存在に気付きました。数日前に何気なくみた学志舎のHPにあった動画『たしかなこと』の伝えている意味を、頭でわかっていたつもりでしたが身を持って知ることとなり、涙が止まらずひとりで車を走らせ、職場から帰宅の途に着きました。》

でも、反省はここまでにします。

自分が何をすべきなのかが分かった今は、もう反省や感情に浸っている時

間はないのですから、とにかく行動に移しました。

二度と失敗しないように、やるべきことを思いっただけ考えて、そこから更に優先順位をつけて。1つのことに的を絞ったら、更に細かく段取りを考え、自分がスッキリするだけでなく、問題と真正面から向き合い、これから自分が向き合っていく問題に関わっている人達のこれからも考え、お互い『妥協』ではなく『納得の上での折り合い』がつけられるような時間を作りたいと思います。これが、今私がすべき『我が子を守る』親の努めだと思うので。意気込まず、突っ走らず、丁寧に頑張ります！！

このような機会へ導いてくださった塾長・事務長・先生方、書面で申し訳ありませんが、感謝しております。ありがとうございました。